

地下鉄整備による人の動きの変化

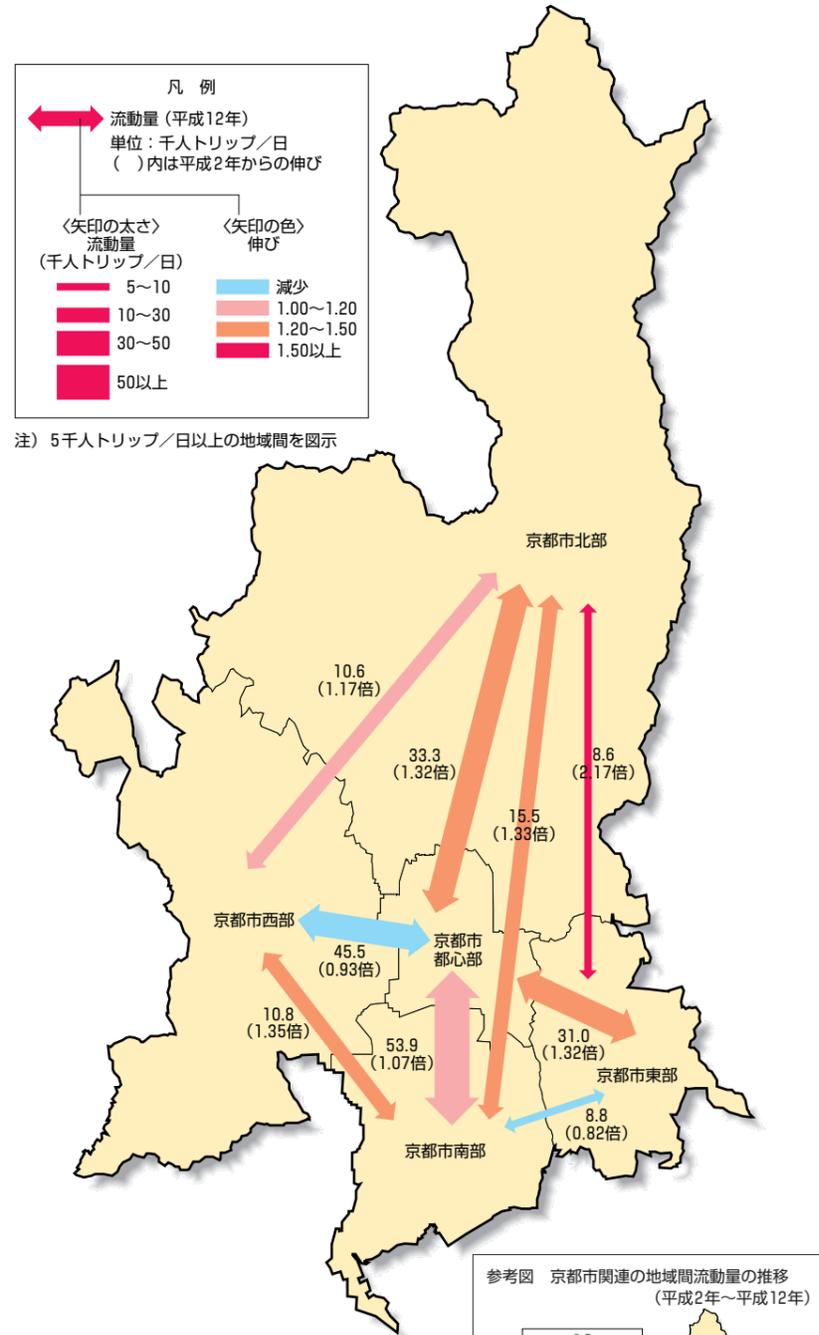
■地下鉄東西線の開業および烏丸線の延伸により、沿線地域間の鉄道利用は増加

地下鉄東西線は平成9年10月に開業、地下鉄烏丸線（国際会館～北山間）は平成9年6月に延伸しました。東西線は、二条駅（中京区）から醍醐駅（伏見区）間の12.7kmを24分で結び、この区間内には13の駅があります。烏丸線は北山駅から国際会館駅までの2.6km、2駅が延伸されました。

京都市における鉄道利用による地域間の人の動きをみると、北部と各地域との流動量が増えていることがわかります。

また、都心部と東部の動きをみると、全交通手段をあわせた流動量は減少していますが（参考図）、鉄道利用による流動量は増加しています。（図28）

図28 京都市における鉄道利用による地域間流動量の推移（平成2年～平成12年）



参考図 京都市関連の地域間流動量の推移（平成2年～平成12年）

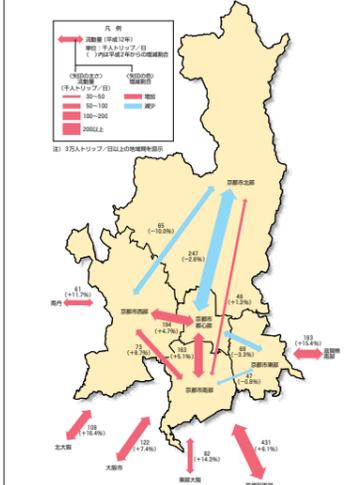


図29 京都市北部、都心部、東部における発生集中量の手段構成の推移（昭和55年～平成12年）

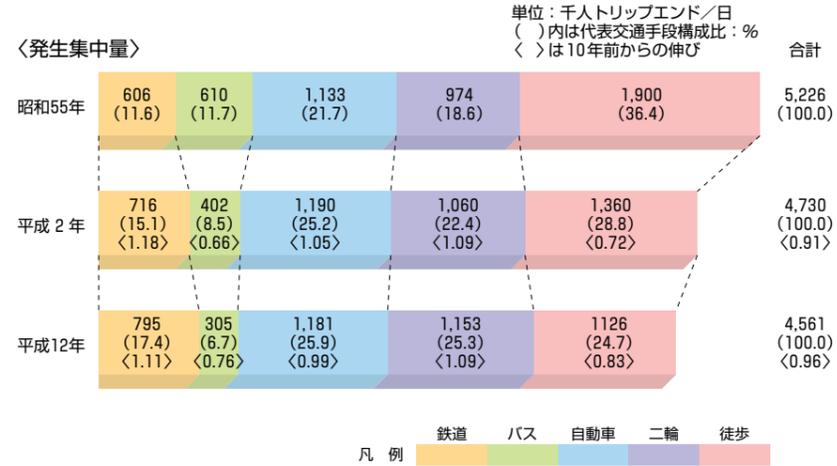
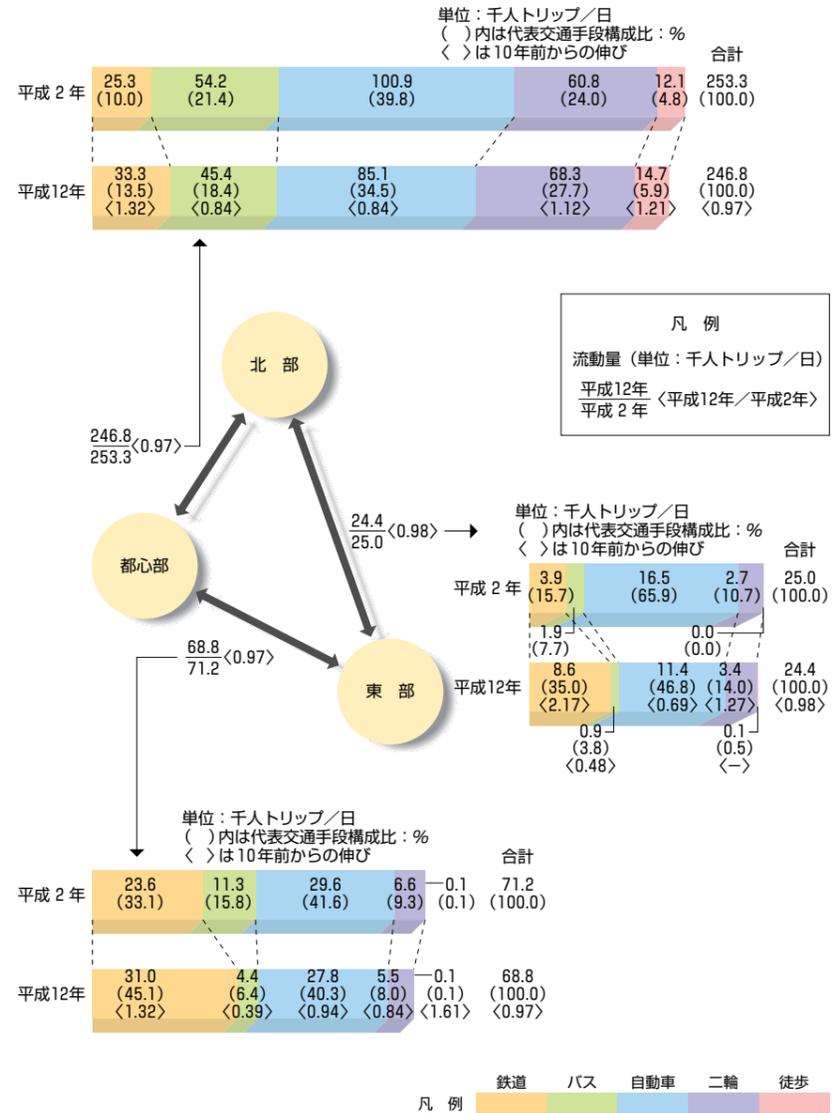


図30 京都市北部、都心部、東部間の流動量と手段構成の推移（平成2年～平成12年）



北部、都心部、東部における発生集中量について、昭和55年から平成12年までの手段構成の推移をみると、鉄道、二輪が増加しているのに対し、バス、徒歩が減少しています。

特に、徒歩の割合についてみると、昭和55年から平成12年の20年間で10%以上も減少しています。（図29）

北部、都心部、東部間の流動量と、その手段構成の推移をみると、いずれの地域間においても鉄道を利用した流動が、他の手段と比べて増加していることがわかります。特に北部～東部間においては、鉄道利用が約2.2倍と大きく増加しています。

これらのことから、東西線の開業や烏丸線の延伸により、沿線地域での鉄道利用が増加していることが伺えます。

一方、バス及び自動車の利用割合についてみると、いずれの地域間の流動においても減少しています。（図30）